

三井楽地区

福江島の北西に位置する三井楽は、26 万～34 万年前に京野岳から流れ出た火山流によって形成された。半島の先端にある柏崎岬は、かつて 8 世紀から 9 世紀にかけて、中国への危険な横断をした遣唐使船の最後の寄港地だった。小高い丘には、空海（774-835）を讃える石像と石碑がある。空海は中国で仏教を学び、帰国後、日本の密教のひとつである真言宗を開いた。彼は日本の歴史上、最も尊敬される僧侶の一人となった。

半島の東側と西側の入り江には砂浜がいくつかあり、海水浴やウォータースポーツに人気のエリアとなっている。北東側の入り江には小さな農漁村があり、19 世紀から 20 世紀初頭にかけて建てられた教会が今も残っている。

見どころ

高浜海水浴場

山から川によって運ばれてきた土砂や、波によって運ばれてきた貝殻やサンゴの粒子が、ごつごつとした海岸の入り江に集まっている。特に高浜の広大な白砂の浜辺はその顕著な例で、2 つの岩の岬の間に長さ 400 メートルの砂州が広がっている。海水は穏やかで透明度が高く、海水浴に理想的で、遠浅のため青と緑のグラデーションが印象的だ。こののどかな入り江は、環境省の「日本の渚百選」に

も選ばれている。

魚籃観音

高浜海水浴場のすぐ北にある岬には、魚籃を持った珍しい石像がある。「魚籃観音」と呼ばれるこの観音像は、船乗りの安全と豊漁をもたらすと信じられてきた。この観音像からは、東シナ海を眺めることができ、周囲の断崖絶壁からは五島の多様な地層を観察することができる。

伝統的な漁業と農業

三井楽は北西の季節風に直接さらされるため、当初、入植者はこの地域を避けていた。やがて、防風林として耐塩性のツバキが植えられ、円畑と呼ばれる円形の畑の土壌を守るようになった。これらの椿と畑は現在も使われている。この地域はまた、スケアンと呼ばれる伝統的な潮干狩り用の魚捕り場を観察するのに良い場所でもある。